



学習を充実させるために目的を明確にしよう

県高校総体が終わり、多くの3年生が受験に向けた学習を本格化させていると思います。また、1・2年生も新体制で新たに部活動をスタートさせ、活動量増加に伴う肉体的疲労と強い使命感からの精神的疲労にも負けずに日々の学習に取り組んでいることと思います。そこで、学習をより充実させるためにも目的を明確にして、計画的に取り組むことが大切になってきます。下の表を参考に学年と時期によって自分が学習する目的や内容を明確にして日々の学習に取り組みましょう。

学年	期間	学習内容
高校1年	高い進路目標の設定と受験に向けた土台構築	
	4月～7月	学習習慣の定着(予習・復習・日々題)
	8月～12月	基礎学力(国・数・英)の強化
	1月～3月	応用力(国・数・英)の育成
高校2年	高い進路目標を実現させるために必要な得意科目の強化	
	4月～7月	1年次の総復習と得意科目の強化に努める
	8月～12月	苦手科目の克服と志望校の受験科目の確認
	1月～3月	応用問題や過去問への取り組み
高校3年	志望校合格に向けた学習の総仕上げ	
	4月～7月	受験に向けた1・2年次の学習内容の総復習
	8月～12月	志望校合格に向けた応用力の完成
	1月～3月	入試直前対策

熊本大学に関する情報について

今年度、熊本大学は新学部増設や文学部改組、佐賀大学との共同教員養成課程の新設など昨年度入試からの変更点が結構ありますので、受験を考えている生徒は、熊本大学のウェブサイトをよく確認してください。

(1) 共創学環(令和8年4月開設予定)について

地球規模の視野と地域の視点で考え行動し、共生共創する地域をデザインできる課題発見・設定・解決型人材並びに社会イノベーションを創出する人材を養成する。

1年次	共通教育
2年次選択 専門分野教育	育成を目指す能力や特徴など
産学官金連携実践教育	経営・マネジメント力, 社会実践力 ※社会実践演習・海外研修, 産学官金連携など
コミュニケーション実践教育	コミュニケーション力, 外国語運用力 ※実践英語・中国語・韓国語, 心理学・ロジカルシンキングなど
文理融合型教育	学際的な専門知識, 多面的な思考力 ※経済公共政策, 多文化共生・総合人間・歴史など
デジタル活用実践教育	データサイエンス力 ※課題設定, データ収集, データ分析など
※上記に加えて、3年次よりフィールドワーク授業を中心としたコース選択を行う。	
選択コース (3・4年次)	① 地域イノベーションコース ② グローバルイノベーションコース

(2) 文学部の改組について

従来の4学科から1学科(人文科学科)になることで、受験時点で所属学科を決めることなく、1年次に文学部を構成する幅広い分野を学んだ上で、希望コースを選択できるメリットがある。

昨年度	今年度
文学部 (170名)	文学部人文科学科 (160名)
★総合人間学科 (55名) 人間科学コース, 社会人間学コース, 地域科学コース	人間科学コース 社会人間学コース 地域科学コース 歴史資料学コース 超域歴史学コース 東アジア言語文化学コース 欧米言語文化学コース 多言語文化学コース 現代文化資源学コース
★歴史学科 (35名) 歴史資料学コース, 世界システム史学コース	
★文学科 (50名) 東アジア言語文学コース, 欧米言語文学コース 多言語文化学コース	
★コミュニケーション情報学科 (30名) コミュニケーション情報学コース 現代文化資源学コース	

【その他の変更点】

- ※「コミュニケーション情報学コース」は、「共創学環」へ統合される。
- ※学校推薦型選抜I【23名→25名】(各学校から3名まで)
- ※一般選抜前期で「小論文」(100点)の廃止と主体性評価(10点)の追加

(3) 教育学部 共同教員養成課程について

英語で授業ができる教員の育成や産官学連携によるICT教育に長けた熊本大学教育学部と異校種どうしの連携や特別支援教育、実践的な指導力に優れた佐賀大学教育学部が連携し、両者の強みを活かした新教員養成課程が令和8年4月に始まる。複雑で多様な課題が山積する教育現場で「伸びやか」・「強靱な思考力」・「柔軟な対応力」を兼ね備えた教員育成をめざしている。

① 単位認定

※卒業に必要な124～128単位のうち31単位をパートナー大学から受講する。

共同科目	一方の大学教員が両大学またはパートナー大学の学生に対して開講する科目。遠隔授業システム教室やZoomによる遠隔授業、教員の移動による対面授業にて実施する予定。
------	---

※その他の授業について

【シラバス共通科目】

両大学でシラバスを共通化し、自大学の学生に対して開講する授業。両授業内容は基本的に共通化。

【独自科目】

原則、一方の大学のみで開講し、各大学の特色を活かした科目のこと。

※「養護教諭養成課程」は、共同教員養成課程とは別である。

初めての共通テスト情報を終えて、みなさんに考えてほしいこと

2年7組 副担任 情報科 高山 倫広

昨年度の共通テストで、初めて情報Ⅰの試験が行われました。新しい教科ということで、様々な話題が上がりましたが、みなさんの目にはどう映ったでしょうか。インターネット上での一般の方々における評判は賛否あるようですが、高校・大学の先生や予備校などの「専門的な視点」はそのほとんどが「全体的に良問」でした。覚えておかなければ解けない用語はほとんどなく、初見の内容であっても問題文をしっかりと読み込めば、授業で学んだ範囲で十分に答えが導き出されるものが多かったです。その証左として当時の3年生の感想でも「思いのほか解きやすかった」、「丁寧に読めば答えが出てくる問題が多かった」、「実力テストの方が難しいんじゃないかと思った」と述べた生徒が多いようでした。

ところで2年生のみなさんに質問です。自分の第一希望の学部学科における大学入試の「配点」を見たことがありますか？。共通テストは国語200点、地歴100点のように点数が決まっていますが、実際にはそれを何点分にするかは大学にゆだねられています。その結果、次のようなデータが広まりました。

共通テストを6教科8科目課す場合、大学入試センターの素点をそのまま利用すると、全体は1000点満点、「情報」の配点は100点、つまり1割です。

しかし、各大学の配点比率を見ると、「情報」の配点が1割未満という大学が全体の6割強を占めています。(中略)新しい科目について不安の声もあることを考慮して、初年度はスモールスタートとしたところも多いようです。高校での「情報」の学びが確立されていくと、徐々に配点比率を上げていく動きが出てきそうです。

河合塾レポート「情報入試」をめぐる動き より

この文言だけを見ると今のところ、情報は他教科より軽い印象を受けます。事実、身近な鹿児島大学を例にとると、ある学科は920点分の20点しかないので「軽い扱い」と捉えられても仕方がないでしょう。ところが、他大学の、「数学科なので数学だけ配点が高い」場合であっても、情報は相対的に配点比が低くなります。本当に「軽い」のかデータを慎重に見なければなりません。

もし、教科情報を甘く考え、100点満点で平均より20点低かったとします。前述の20点に圧縮されるパターンなら1/5で4点のビハインドにしかならないですが、それはそういう配点になっている所しか成り立たない理論です。4割強の「配点比が低い学科」では20点分のマイナスを背負うのでその分、選択できる大学が狭まってしまいます。情報の配点が比較的低い学科を第一志望にしている人は、もし志望を変えることになっても大丈夫かというところまで意識して勉強しましょう(情報だけの話ではないですが)。

自分の進路希望を考える際に「国語が得意だから、国語の配点が高いところだと有利かな」と考えるのはかまわないと思いますが、入試の平均点は一定ではありません。良し悪しどちらの場合であっても、進路を狭めることがないように、少なくとも今の段階ではどの教科も手を抜くことなく学習していきましょう。